

# 共通語彙基盤

住所  
情報交換パッケージ (IEP)  
v1.0

平成27年2月3日

目 次

1. 本 IEP の目的	1
2. データ項目	2
3. IEP 活用の流れ	6
3. 1 新規システム構築の場合	6
3. 2 既存システムの場合	6
3. 3 自治体で中間標準レイアウトを使っている場合	7
4. コード等	9
5. サンプル	10

図 表 目 次

図 1 IEP を介したデータの連係	1
図 2 主なデータ項目	2
図 3 詳細データ項目	4
図 4 英語対応、schema.org 対応	5
図 5 新規システムでの導入イメージ	6
図 6 既存システムでの導入イメージ	7
図 7 サンプル	12

## 1. 本 IEP の目的

住所とは、行政区域に基づき表記される位置情報である。ビル名や階数等の方書情報を含む場合もある。住所には、住民票の住所、現住所、法人登記上の住所、本店所在地等がある。

多くの業務において住所の記述が求められるが、その形式は申請等のサービス毎に定義されている。例えば、「1 行で書かれる住所」、「都道府県・市区町村等の構造化した住所」が混在し統一されていない。そのため、システム内で住所データを保存していたとしても、申請を送る時に相手先毎に再入力もしくはデータ変換を行う必要がある。

そこで、住所を交換する時の共通的な交換方法が必要となる。既存のシステムのデータ構造を変更する必要はないが、相手先にあわせてデータ変換する時に参照すべきデータ一覧が必要となる。

本 IEP (Information Exchange Package:情報交換パッケージ) は、住所の情報を公開、交換、管理するために整備されたものである。実装に当たっては、共通語彙基盤の語彙セットを本 IEP と合わせて参照されたい。

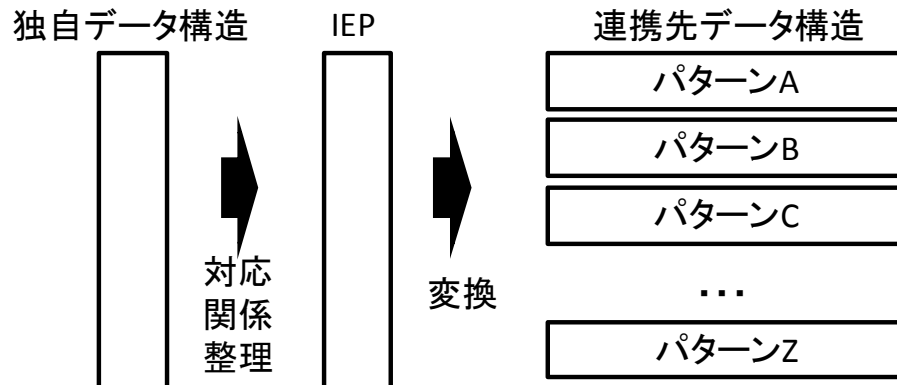


図 1 IEP を介したデータの連係

### IEP 活用のメリット

- ・組織内外の多くのシステムと情報交換がしやすくなる  
(調整やインターフェース改造が不要)
- ・情報項目に定義があるので、誰が見ても誤解なく情報が活用できる
- ・新規システム開発では、データ設計が標準的なデータでできる

世界的には通りを中心にした住所表示をする国が多いが、日本の面を中心とした住所特性を基本にして整備を行っている。

## 2. データ項目

データ項目と記述イメージは、以下の通りである。灰色項目はその下に記述された項目を組み合わせることで、アプリケーションで自動生成できる項目である。ただし、構造化した住所を使用しないで、直接記入することも可能である。

データ項目名	説明	備考
住所表記	都道府県、市区町村、町名を連続して記載。その後、丁目、番地、号をハイフンで接続して半角で記載。「東京都千代田区霞が関 1-3-1」	下記の構造化した住所をもとに自動生成することが望ましい。
郵便番号	郵便番号を半角、ハイフンなし、連番で記載。	
都道府県	都道府県を記載。	
市区町村	市区町村名を記載。郡の場合は町村と間を空けずに記載。「**郡&&町」	
区	政令指定都市の区を記載。	東京都の特別区は、上の市区町村に記載。
町名	地区の名称を記載。	字等、数字の前の漢字項目を記載。
丁目	半角で記載。	
番地補足	番地の前の文字列を記載。	丁目以降の数字の前に、「東」「北」「浜」「甲」「イ」等の文字が付く場合には記載。
番地	半角で記載。	
号	半角で記載。	町名の後ろに数字が1つしかない場合はここに記載。
ビル名	ビル名を記載「合同庁舎」	
ビル番号	半角数字で記載 4号棟は「4」。	ビル棟名が新館、〇〇棟数字以外で示される時にはビル名の後ろにスペースを空けずに記載。「〇〇省新館」等
部屋番号	半角数字で記載。「1234」	部屋名が文字の場合には、文字で記入。ただし、半角数字でない場合には、一部の処理でデータが処理されないことがある
方書	ビル名と部屋番号を連続して記載。「合同庁舎 4- 1234」	構造化したデータをもとに自動生成することが望ましい。

図 2 主なデータ項目

アプリケーションでは、図2のデータが利用者に見える。データベースでデータを管理する場合の IMI 対応は以下のとおりである。

ic:住所型					
ic:種別					現住所が基本であるが、「住民票上の住所」等住所項目を複数持つ時に使用する。
ic:表記					都道府県、市区町村、町名を連続して記載。その後、丁目、番地、号をハイフンで接続して半角で記載。
ic:国					国名を記載。
ic:国コード					国名コード（2文字）を記載。
ic:都道府県					都道府県名を記載。「東京都」「神奈川県」のように、都道府県まで記載。
ic:都道府県コード					全国地方公共団体コード（左2桁）を記載。
ic:市区町村					市町村名、および、東京都の場合は特別区名を記載。郡は、「〇〇郡〇〇村」と記入。北海道で総合振興局の記載が必要な場合には、市町村名の前に記載。
ic:市区町村コード					全国地方公共団体コード（右4桁）を記載。
ic:区					政令指定都市の場合は、区を記載。
ic:町名					町名、大字等、文字での住所記載部分を記載。
ic:丁目					半角数字
ic:番地補足					丁目以降の数字の前に、「東」「北」「浜」「甲」「イ」等の文字が付く場合には記載。
ic:番地					半角数字。
ic:号					半角数字。町名の後ろに数字が1つしかない場合はここに記載。
ic:ビル名					ビルに、「新館」等の日本語補足があるときには、「〇〇ビル新館」の要に記入
ic:ビル番号					半角英数字

ic:部屋番号				半角数字	
ic:方書				ビル名、ビル番号、部屋番号を連続して記載。	
ic:ID					
ic:住所コード					
	ic:コード種別				
		ic:名称		ID に名称がある場合に記載。	
		ic:発行者		ID を発行する組織名を記載。	
		ic:バージョン		ここで使用する ID のバージョンを記載。	
		ic:URI		ID に URI がある場合に記載。	
	ic:識別値			ID の実際の値を記載。この部分が一般には表示される。	
ic:郵便番号					

図 3 詳細データ項目

英語名は IMI の命名規則（NDR）に従い、単語の頭文字を大文字にして英単語を接続している。

また、検索エンジンでの用語の標準化している Schema.org との関係も下表に整理する。利用した Schema.org の分類は、以下の通りである。

ic:住所型	英語名	Schema.org
ic:表記	FullAddress	Thing>Place>address
ic:国	Country	Thing>Intangible>StructuredValue>ContactPoint>Address>addressCountry
ic:都道府県	Prefecture	Thing>Intangible>StructuredValue>ContactPoint>Address>addressRegion
ic:市区町村	City	Thing>Intangible>StructuredValue>ContactPoint>Address>addressLocality
ic:町名	AddressArea	(Thing>Intangible>StructuredValue>ContactPoint>Address>streetAddress)
ic:丁目	Thoroughfare	(Thing>Intangible>StructuredValue>ContactPoint>Address>streetAddress)
ic:番地	HouseNumber	(Thing>Intangible>StructuredValue>ContactPoint>Address>streetAddress)
ic:号	LotNumber	(Thing>Intangible>StructuredValue>ContactPoint>Address>streetAddress)
ic:ビル名	LocatorFull	
ic:ビル番号		
ic:部屋番号	LocatorName	
ic:郵便番号	LocatorDesignator	Thing>Intangible>StructuredValue>ContactPoint>Address>postalCode
ic:ID	PostCode	
ic:住所コード	AddressId	

図 4 英語対応、schema.org 対応

### 3. IEP 活用の流れ

#### 3. 1 新規システム構築の場合

データ設計において、本 IEP の活用を検討する。本 IEP に対応することで、インターフェースのカスタマイズを最小限に抑えることができる。

データベース内のデータを詳細項目で記録して、入出力においては利用者に合わせた形で構築する。こうすることで、高い相互運用性と使いやすいインターフェースを両立させること。

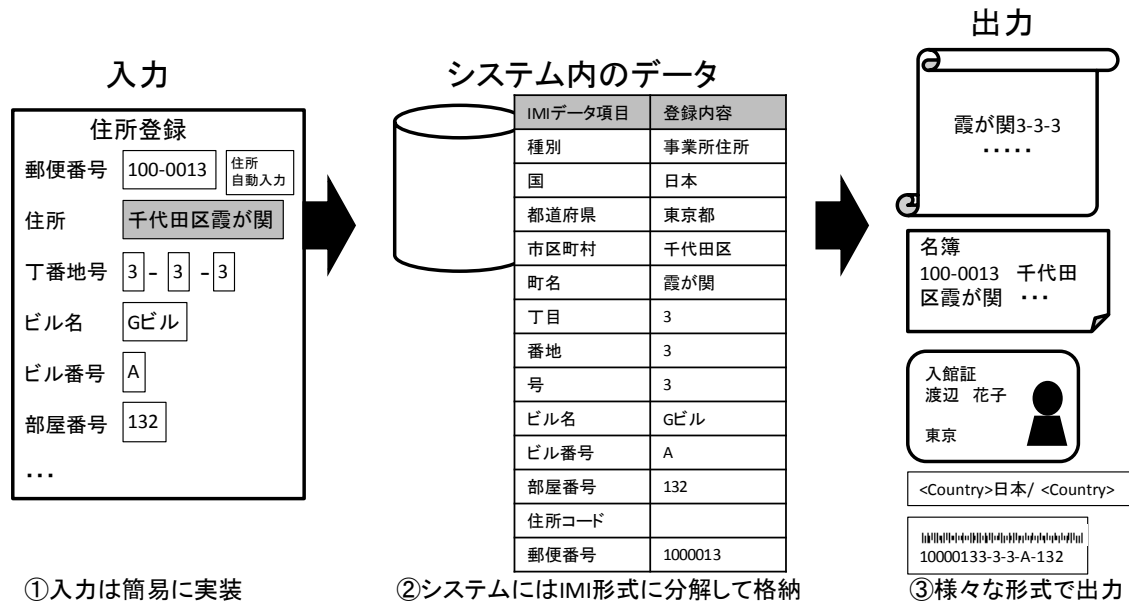


図 5 新規システムでの導入イメージ

#### (1) 手順 1 データ洗い出し

新システムで必要なデータ項目の洗い出しを行う

#### (2) データ確認とサブセット作成

IMI の住所項目データを見て、過不足を検討する。そして、IMI のデータのうち使用する項目のサブセットを作成する。

#### (3) データ実装方式の検討

画面やデータベースでのデータ実装方式を検討する。郵便番号や町字コードから住所を自動入力するなどの工夫を行う。

#### 3. 2 既存システムの場合

他システムとの情報交換や情報公開のためにデータのインターフェース設計 (API を含む) が必要な時に、本 IEP の活用を検討する。本 IEP を活用することで、2 回目以降の変換作業の負担を大幅に減らすことができる。



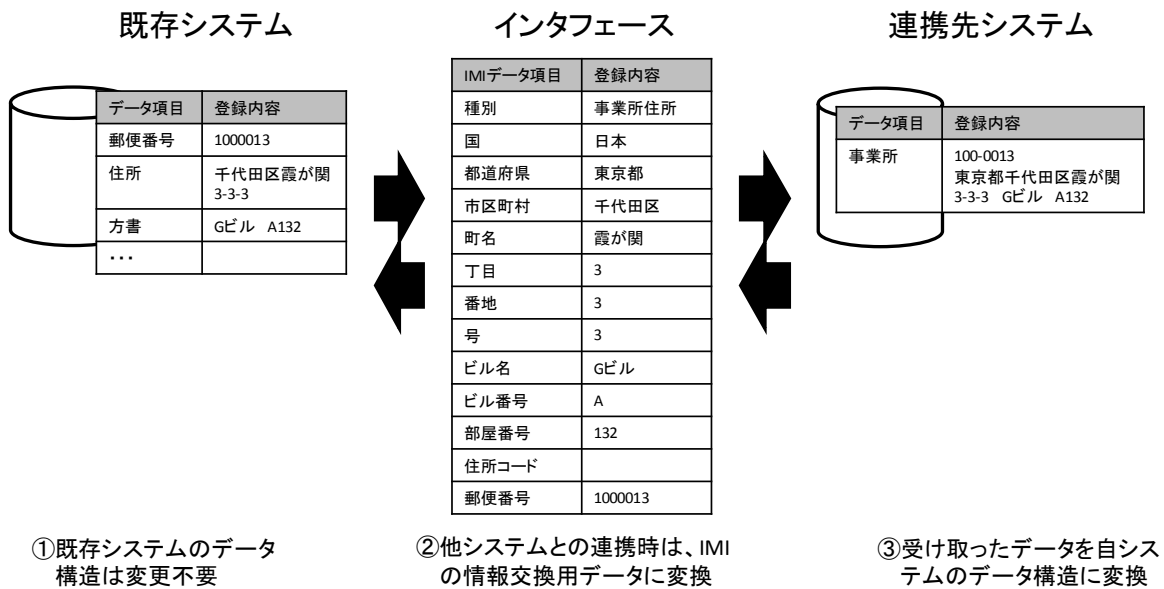


図 6 既存システムでの導入イメージ

(1) データ対応表の作成

自組織内で住所に関するデータベースを持っている時には、IMI のデータ項目に対して対応表を作成する。

(2) 情報交換用データセットに変換

情報交換先にあわせて、構造化された住所を、1行で記載する住所に変換したり、その逆に、1行で書かれた住所を分割したりする。

必要な場合には、漢字の住所データを元に、カナデータを生成する。

(3) IMI 形式データの受信と自組織のデータ形式への変換

データ連携先には、IMI 形式でのデータ送信を依頼する。その上で、IMI 形式で受信したデータを、自組織のデータ形式に変換する。

3. 3 自治体で中間標準レイアウトを使っている場合

自治体では、中間標準レイアウトの利用が推奨されている。その場合には、以下のルールで変換を実施する。

中間標準レイアウト	IMI	備考
住所区分	種別	以下から選択。 現住所、転入前住所、転出先、実定地、本籍地

住所コード	ic:住所_住所コード	町・字コードを記載。 ※町・字コードは有料であるため、IMI では任意使用項目である。
住所	ic:住所_表記	中間標準レイアウトでは、番地まですべて全角で記載。 IMI では、丁目以下は半角で記載。
方書	ic:定型住所_方書	
カナ方書		該当なし
郵便番号	ic:住所_郵便番号	半角数字7桁連番。

## 4. コード等

住所の表記には以下のコードが活用できる。

名称 : 国名コード (2文字)  
 コード ID : ISO3166-1alpha-2,JIS X 0304-ISO3166-1  
 発行者 : ISO  
 発行者 ID :  
 バージョン :  
 URI (URL) : [http://www.iso.org/iso/country\\_codes.htm](http://www.iso.org/iso/country_codes.htm)

名称 : 国名コード (3文字)  
 コード ID : ISO3166-1alpha-3,JIS X 0304-ISO3166-1  
 発行者 : ISO  
 発行者 ID :  
 バージョン :  
 URI (URL) : [http://www.iso.org/iso/country\\_codes.htm](http://www.iso.org/iso/country_codes.htm)

名称 : 全国地方公共団体コード  
 コード ID :  
 発行者 : 総務省  
 発行者 ID :  
 バージョン :  
 URI (URL) : <http://www.soumu.go.jp/denshijiti/code.html>

名称 : 郵便番号  
 コード ID : ISO3166-1alpha-2,JIS X 0304-ISO3166-1  
 発行者 : 日本郵便株式会社  
 発行者 ID :  
 バージョン :  
 URI (URL) : <http://www.post.japanpost.jp/zipcode/>

以下のコードは自治体での利用が行われているが、企業等の情報交換先が対応していない場合には使用しても交換に活用できない。

名称 : 全国町・字 (まちあざ) ファイル  
 コード ID :  
 発行者 : 地方公共団体情報システム機構  
 発行者 ID :  
 バージョン :  
 URI (URL) : [https://www.j-lis.go.jp/jyouhou-syori/machiaza/cms\\_11034.html](https://www.j-lis.go.jp/jyouhou-syori/machiaza/cms_11034.html)

## 5. サンプル

サンプル1

データ項目名	説明	サンプル
種別		現住所
住所表記	都道府県、市区町村、町名を連続して記載。その後、丁目、番地、号をハイフンで接続して半角で記載。	東京都千代田区霞が関 1-3-1
郵便番号	郵便番号を半角、ハイフンなし、連番で記載。	1000013
都道府県	都道府県を記載。	東京都
市区町村	市区町村名を記載。郡の場合は町村と間を空けずに記載。「**郡&&町」	港区
町名	地区の名称を記載。	霞が関
丁目	半角で記載。	1
番地	半角で記載。	3
号	半角で記載。	1
ビル名	ビル名を記載「合同庁舎」	カスミビル本館
ビル番号	半角数字で記載 4号棟は「4」。	
部屋番号	半角数字で記載。「1234」	1208
方書	ビル名と部屋番号を連続して記載。「合同庁舎 4- 1234」	カスミビル 1208
種別		転入前住所
住所表記	都道府県、市区町村、町名を連続して記載。その後、丁目、番地、号をハイフンで接続して半角で記載。	京都府京都市下京区烏丸通高辻上る大政所町 682
郵便番号	郵便番号を半角、ハイフンなし、連番で記載。	6008413
都道府県	都道府県を記載。	京都府
市区町村	市区町村名を記載。郡の場合は町村と間を空けずに記載。「**郡&&町」	京都市
区	区名を記載。	下京区
町名	地区の名称を記載。	烏丸通高辻上る大政所町
丁目	半角で記載。	
番地	半角で記載。	
号	半角で記載。	682
ビル名	ビル名を記載「合同庁舎」	烏丸 A ビル
ビル番号	半角数字で記載 4号棟は「4」。	2
部屋番号	半角数字で記載。「1234」	201
方書	ビル名と部屋番号を連続して記載。「合同庁舎 4- 1234」	烏丸 A ビル 2-208
種別		転出先
住所表記	都道府県、市区町村、町名を連続して	1401 Constitution Ave., N.W.

	記載。その後、丁目、番地、号をハイフンで接続して半角で記載。	Washington,DC
郵便番号	郵便番号を半角、ハイフンなし、連番で記載。	20230
国	国を記載。	United States
都道府県	都道府県を記載。	DC
市区町村	市区町村名を記載。郡の場合は町村と間を空けずに記載。「**郡&&町」	Washington
町名	地区の名称を記載。	Constitution Ave., N.W.
丁目	半角で記載。	
番地	半角で記載。	
号	半角で記載。	1401
種別		実定地
住所表記	都道府県、市区町村、町名を連続して記載。その後、丁目、番地、号をハイフンで接続して半角で記載。	群馬県吾妻郡中之条町大字 小雨 577-1
郵便番号	郵便番号を半角、ハイフンなし、連番で記載。	3771795
都道府県	都道府県を記載。	群馬県
市区町村	市区町村名を記載。郡の場合は町村と間を空けずに記載。「**郡&&町」	吾妻郡中之条町
町名	地区の名称を記載。	大字小雨
丁目	半角で記載。	
番地	半角で記載。	577
号	半角で記載。	1
方書	ビル名と部屋番号を連続して記載。「合同庁舎 4- 1234」	田中様方
種別		本籍地
住所表記	都道府県、市区町村、町名を連続して記載。その後、丁目、番地、号をハイフンで接続して半角で記載。	北海道札幌市北区北 24 条西 6-2-12
郵便番号	郵便番号を半角、ハイフンなし、連番で記載。	0018585
都道府県	都道府県を記載。	北海道
市区町村	市区町村名を記載。郡の場合は町村と間を空けずに記載。「**郡&&町」	札幌市
区	区名を記載。	北区
町名	地区の名称を記載。	北 24 条西
丁目	半角で記載。	6
番地	半角で記載。	2
号	半角で記載。	12
種別		本社所在地
住所表記	都道府県、市区町村、町名を連続して	石川県金沢市磯部町ニ 4 5

郵便番号	記載。その後、丁目、番地、号をハイフンで接続して半角で記載。 郵便番号を半角、ハイフンなし、連番で記載。	9200012
都道府県 市区町村	都道府県を記載。 市区町村名を記載。郡の場合は町村と間を空けずに記載。「**郡&&町」	石川県 金沢市
区	区名を記載。	
町名	地区の名称を記載。	磯部町
丁目	半角で記載。	6
番地補足	丁目以降の数字の前に、「東」「北」「浜」「甲」「イ」等の文字が付く場合には記載。	ニ
番地 号	半角で記載。 半角で記載。	45

図 7 サンプル